

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要について

安来市教育委員会 学校教育課

平成30年4月17日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。

1 全国の状況

- 本年度の調査は、国語、算数・数学、理科の3教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象とした調査でした。(ただし理科については、複式学級で単元を入れ替えて学習していることもあり、調査対象の児童数や問題数に違いがあります。)
- 問題は、これまでの調査で見られた課題についての改善状況を把握する観点から出題されています。全体的には、平成26年度調査以降、都道府県別の成績(平均正答率)は全国平均と下位層の差が縮まり、「底上げ」が進んでいます。
- 平成29年度より、全体の平均正答率は整数値にて公表されています。よって、各教科における全体の結果については全国との差に誤差(四捨五入の関係による)が生じることから、表示はしておりません。

2 安来市の状況

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

- 国語:**全体では、全国平均を下回る状況でした。
 ・知識については、「書くこと」「読むこと」において、引き続き課題がみられました。
 ・活用については、改善が見られていた「読むこと」の領域も含めて、全国平均を下回りました。
- 算数:**全体として、ほとんどの領域で全国平均より下回りました。
 ・知識については、「量と測定」の領域が全国平均と同程度ですが、昨年度改善がみられた「図形」の領域を含め、全国平均を下回りました。
 ・活用については、すべての領域で全国平均を下回りました。

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

国語A		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国	全国との差
全体		63	68	70.7	
領域	話すこと・聞くこと	87.3	90.8	90.8	-3.5 ▲
	書くこと	70.4	72.4	73.8	-3.4 ▲
	読むこと	70.5	71.2	74.0	-3.5 ▲
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	57.5	64.5	67.0	-9.5 ▲

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

国語B		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国	全国との差
全体		52	55	54.7	
領域	話すこと・聞くこと	62.9	65.3	64.6	-1.7 △
	書くこと	42.2	45.9	45.6	-3.4 ▲
	読むこと	47.8	51.7	50.8	-3.0 ▲
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	—	—	—	—

【算数A】(主として「知識」に関する問題)

算数A		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国	全国との差
全体		58	61	63.5	
領域	数と計算	53.3	58.5	62.3	-9.0 ▲
	量と測定	73.2	73.8	72.7	0.5 ○
	図形	49.4	53.7	56.9	-7.5 ▲
	数量関係	51.4	55.3	60.1	-8.7 ▲

【算数B】(主として「活用」に関する問題)

算数B		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国	全国との差
全体		46	49	51.5	
領域	数と計算	53.0	55.8	58.4	-5.4 ▲
	量と測定	46.0	48.8	52.4	-6.4 ▲
	図形	52.3	55.9	59.9	-7.6 ▲
	数量関係	41.7	42.8	45.1	-3.4 ▲

【理科】

理科		平均正答率(%)				
		安来市	県	全国	全国との差	
全体		55	58	60.3		
主として「知識」に関する問題		76.0	77.0	78.0		
主として「活用」に関する問題		50.0	54.0	56.2		
領域	A区分	物質	53.6	57.0	59.8	
		エネルギー	48.4	51.0	53.1	
	B区分	生命	67.1	72.9	73.6	
		地球	45.0	47.6	49.5	

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が+3ポイント以上を○
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲
 で示しています。

※理科は条件が違うため、全国平均との差を出していません。

〈中学校3年生〉

国語:全体では、A問題、B問題ともに全国平均と同程度でした。
 ・知識については、「読むこと」の領域で全国平均をやや上回り、「書くこと」の領域でやや下回っています。その他の領域は、全国平均と同程度でした。
 ・活用については、「読むこと」の領域が全国平均をやや下回りましたが、その他の領域では全国平均を上回り、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」の領域は全国平均を大きく上回りました。
 ・「書くこと」については、引き続き改善がみられ、全国平均を上回りました。

数学:全体では、全国平均を下回る状況でしたが、改善のみられる領域もありました。
 ・知識については、「図形」「関数」の領域で昨年度と同様の傾向でしたが、「数と式」については改善の傾向がみられました。「資料の活用」の領域については、課題がみられました。
 ・活用については、「数と式」「図形」の領域で昨年度と同様の傾向でしたが、「関数」の領域で改善の傾向が見られました。

理科:「生物的領域」は全国平均を上回り、「物理的領域」「地学的領域」がやや下回りました。
 全体的には、全国平均と同程度となりました。

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

国語A		平均正答率(%)				
		安来市	県	全国	全国との差	
全体		76	76	76.1		
領域	話すこと・聞くこと	74.3	74.1	75.2	-0.9	△
	書くこと	72.1	73.2	73.9	-1.8	△
	読むこと	77.3	77.4	76.7	0.6	○
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	76.1	76.7	76.5	-0.4	△

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

国語B		平均正答率(%)				
		安来市	県	全国	全国との差	
全体		61	61	61.2		
領域	話すこと・聞くこと	77.0	76.0	76.6	0.4	○
	書くこと	33.1	31.1	31.3	1.8	○
	読むこと	52.4	53.1	53.5	-1.1	△
	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	54.1	50.1	49.2	4.9	◎

【数学A】(主として「知識」に関する問題)

数学A		平均正答率(%)				
		安来市	県	全国	全国との差	
全体		63	64	66.1		
領域	数と式	69.7	68.7	71.1	-1.4	△
	図形	65.4	67.8	69.1	-3.7	▲
	関数	50.9	52.6	55.5	-4.6	▲
	資料の活用	58.2	63.9	63.5	-5.3	▲

【数学B】(主として「活用」に関する問題)

数学B		平均正答率(%)				
		安来市	県	全国	全国との差	
全体		43	45	46.9		
領域	数と式	49.0	49.1	51.4	-2.4	△
	図形	40.5	45.1	46.7	-6.2	▲
	関数	52.0	51.1	52.8	-0.8	△
	資料の活用	33.6	35.8	38.0	-4.4	△

【理科】

理科		平均正答率(%)					
		安来市	県	全国	全国との差		
全体		65	66	66.1			
主として「知識」に関する問題		67.0	67.0	67.9	-0.9	△	
主として「活用」に関する問題		63.0	65.0	64.9	-1.9	△	
領域	第1分野	物理的領域	71.8	74.1	74.4	-2.6	△
		科学的領域	63.0	63.8	65.0	-2.0	△
	第2分野	生物的領域	74.2	73.6	72.5	1.7	○
		地学的領域	54.9	56.8	57.8	-2.9	△

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が+3ポイント以上を◎
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲
 で示しています。

(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈小学校6年生〉

【時間等で回答する項目から】

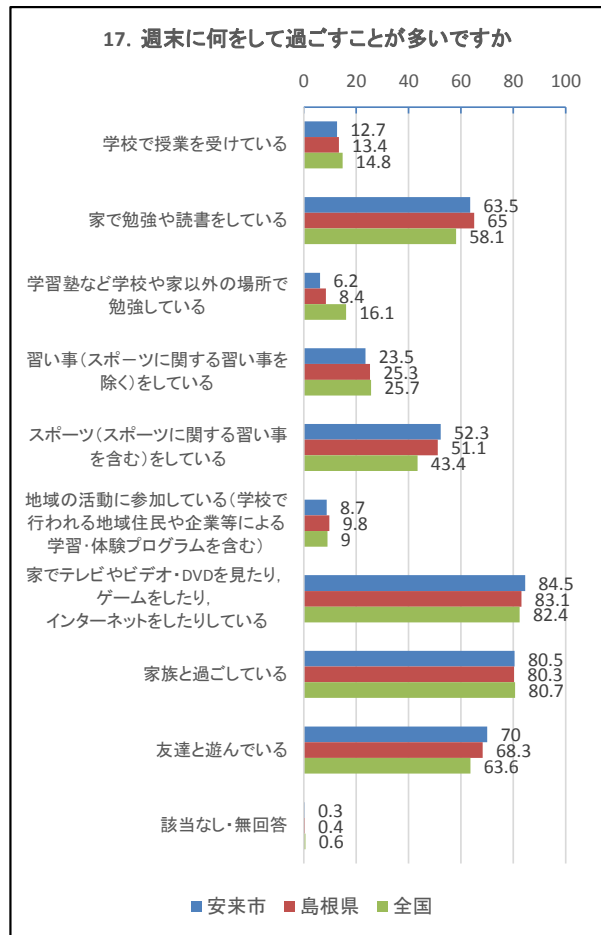
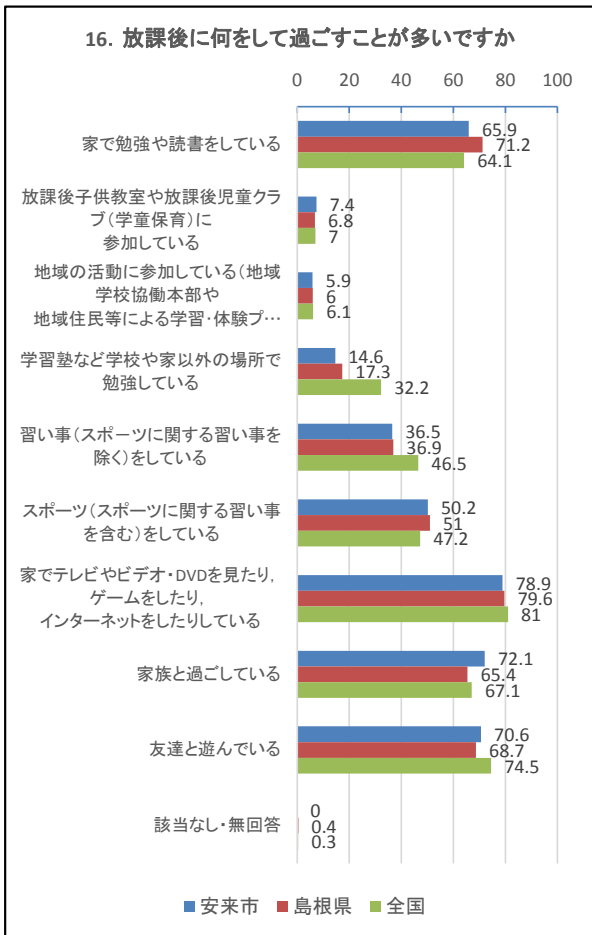
〈電子メディアについて〉(昨年度までと質問内容が異なりましたので、項目を削除します)

〈家庭での学習時間について〉

○学校の授業時間以外の、普段(月～金曜日)の1日当たりの勉強時間(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)が2時間以上と回答した児童の割合…全国29.3%, 本市13.3%
(3時間以上と回答した児童の割合…全国12.5%, 本市3.4%)

〈読書・図書館について〉(昨年度までと質問内容が若干異なっています)

○学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)で、1時間以上と回答した児童の割合…全国19.3%, 本市11.1%
(2時間以上と回答した児童の割合…全国7.8%, 本市3.4%)



【全国と安来市との比較で特徴的な評価項目】

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
小 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。(+15.0) ・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。(+8.1) ・理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。(+7.4) ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。(+7.2) ・5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。(+6.8)
	否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)(-9.7) ・調査問題の解答時間は十分でしたか(算数A)(-7.9) ・調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)(-6.9) ・調査問題の解答時間は十分でしたか(理科)(-4.7) ・調査問題の解答時間は十分でしたか(算数B)(-4.7)

(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈中学校3年生〉

【時間等で回答する項目から】

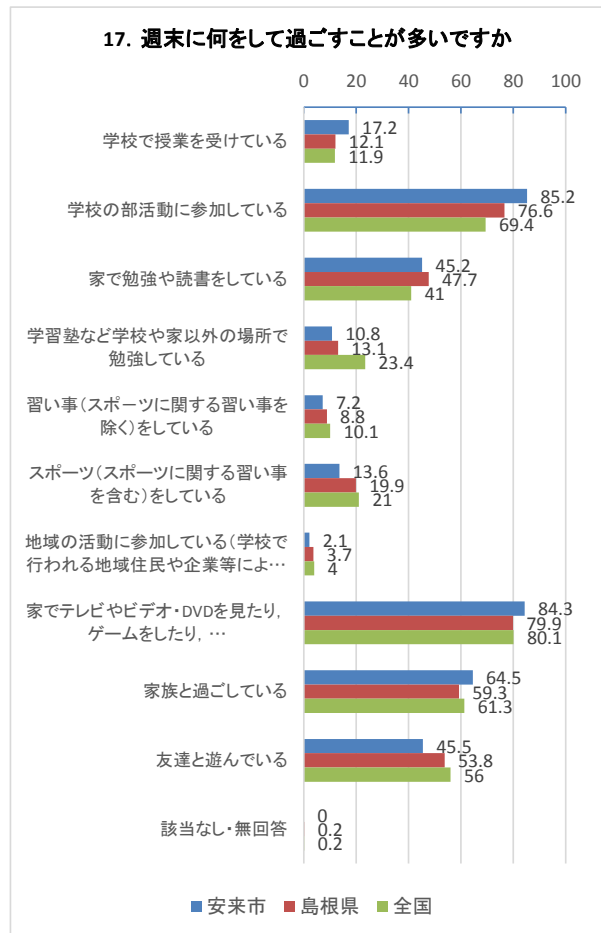
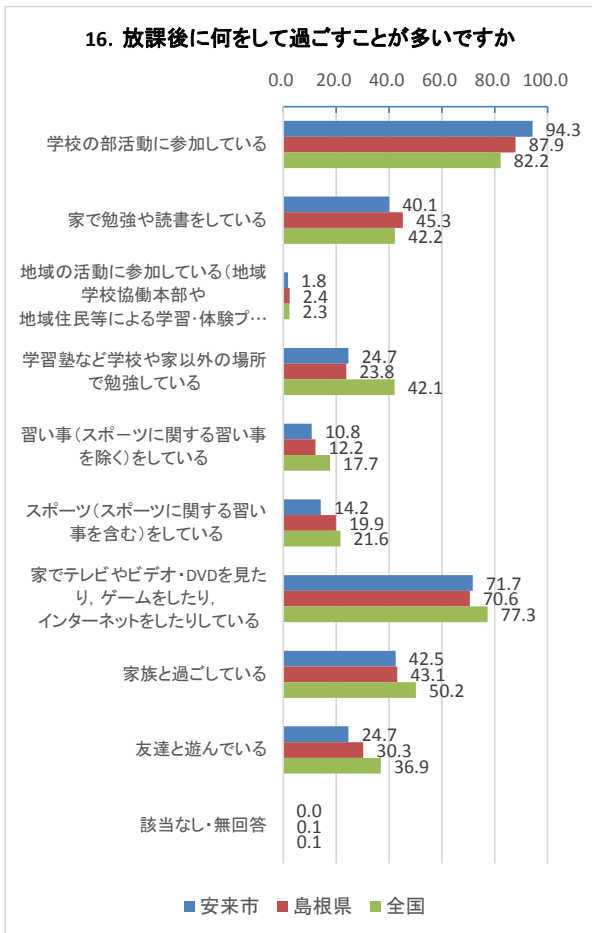
〈電子メディアについて〉(昨年度までと質問内容が異なりましたので、項目を削除します)

〈家庭での学習時間について〉

○学校の授業時間以外の、普段(月～金曜日)の1日当たりの勉強時間(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)が2時間以上と回答した生徒の割合…全国36.4%, 本市16.0%
(3時間以上と回答した生徒の割合…全国10.5%, 本市2.1%)

〈読書・図書館について〉(昨年度までと質問内容が若干異なっています)

○学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)で、1時間以上と回答した生徒の割合…全国14.8%, 本市18.4%
(2時間以上と回答した生徒の割合…全国6.1%, 本市5.7%)



【全国と安来市との比較で特徴的な評価項目】

	肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。(+15.6) ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。(+12.1) ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。(+11.4) ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。(+11.3) ・理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。(+6.8)
	否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査問題の解答時間は十分でしたか(数学B)(-7.0) ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(-6.9) ・調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)(-6.5) ・家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。(-6.4) ・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。(-4.7)

3 結果を受けて

安来市の各小・中学校では、児童・生徒の学力向上を目指し、授業改善はもとより、授業時間以外でも様々な活動に取り組んでいます。安来市教育委員会としましては、全国学力・学習状況調査と島根県学力調査の結果を分析し、さらに学校訪問や各校の授業研究会などの取組の成果や課題を考察した上で、今後の各校の学力向上に向けた具体的な改善の取組を支援していきます。

また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要であることに鑑み、今後さらに学校と家庭とが連携する取組や保育所園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校が連携する取組を支援していきます。

〈学校で〉

- 国語、算数・数学だけでなくどの教科においても、すべての児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることが大切です。わかる喜びは学びの原動力になります。個に応じたきめ細かな指導を充実させたり、補充的な学習を取り入れたりする必要があります。
また、思考力・判断力・表現力等を育成し、知っていること・できること(知識・技能)を活用していけるようにします。学校では、発展的な学習を取り入れたり、児童・生徒が互いに学び合ったりできるような授業実践を目指して、さらなる工夫・改善が望まれます。
そして何よりも大事にしたいことは、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア(生き方)形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができるようにすることです。
- 児童・生徒が主体的に、見通しをもって学習に取り組むために、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示すこと、また、学習したことを整理し、理解の定着を図るために、授業の最後に学習内容を振り返る活動を行うことが必要です。
- 学力調査において、課題の見られた設問について各校で分析し、該当の単元あるいは領域について授業改善に取り組んでください。学力調査の結果分析を改善策の策定に活かし、実践し、評価するPDCAサイクルを構築されることが望まれます。
その際、年度ごとリセットされることのないよう次年度へ継続し改善を図ることが大切です。
- 小・中学校が児童・生徒の学力や生活習慣における共通の課題を明確にし、9年間の内容を系統化し、継続して指導に当たることで、成果がより上がるものと考えられます。
- 保護者と連携しながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に努める必要があります。
- 地域の行事に参加する児童・生徒が多いことは本市の特色です。これまで各学校で取り組んできたふるさと教育の成果であると考えられます。児童・生徒質問紙の「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。」との項目で、中学生が全国平均よりも肯定的な回答をしている割合が高く、地域の行事などに、より主体的に取り組もうとする姿が推察されます。また、小・中学生ともに「(前年度までに受けた授業や課外活動で)地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。」と回答している割合が、全国平均よりも高いです。
今後も、児童・生徒が自ら課題を発見し、解決していく探求型の学習の中で継続されることが期待されます。
- 図書館を利用する児童・生徒が多いことは本市の特色であり、これまで各学校で、司書教諭、学校司書を中心に読書活動の推進に取り組んできた成果であるといえます。
今年度の調査は、読書時間に限定されたものでしたが、今後も、引き続き一人でも多くの児童・生徒に読書習慣が身につく、読書好きの児童・生徒が増えることが望まれます。

〈家庭、地域で〉

◎家庭へのお願い

児童・生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

- 基本的な生活習慣を身につけさせましょう。
 - ・あいさつや食事、睡眠、起床時間など規則正しいリズムを身につけると、児童・生徒の本来持っている力が高まります。
- 家庭で主体的に学習する習慣を身につけさせましょう。
(各学校で配布されている家庭学習の手引きが参考になります。)
 - ・日々、家庭で学習すること(宿題や予習などの学習を大切にすること)は、基礎学力の定着や学力向上には不可欠です。学校では、授業と家庭学習をつなげた取組がなされています。
 - ・今年の調査では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、小・中学生ともに肯定的な回答が全国平均を上回っています。(小学生+5.4, 中学生+6.0)
- 家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう。
 - ・学校での出来事や、テレビのニュース番組を見たり、新聞を読んだりして気づいたことなどを話しましょう。(家庭で学校のことを家族と話し、社会に対する興味・関心の高い児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。)
- 日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。
 - ・お手伝いを通して自分の役割の大切さを感じ、責任感をもつことができます。
 - ・思いやりの心や社会性などを育むことができます。
- 読書に親しむ経験を豊かにしましょう。
 - ・本に親しむ経験は、学習の基盤につながります。
 - ・家で読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりするなど、家庭での読書の機会をさらに増やしましょう。
- 地域の行事に積極的に参加したり、郷土の自然や文化にふれる体験をしたりしましょう。
 - ・ふるさとへの関心を高め、ふるさとを愛する心が育まれます。
 - ・地域の人とふれ合うことで、規範意識が身につく、コミュニケーション力も高まります。

◎地域の皆様へのお願い

「地域の行事に参加している」児童生徒が多いことは、本市の大きな強みと言えます。これは、本市で進めているふるさと教育に対して地域の皆様にご協力をいただいている賜物であると考えています。

ふるさと教育については、より充実したものになるように今後も取り組んでいきますので、引き続きご支援よろしくをお願いします。